鎧塚遺跡発掘調査現地説明会資料

令和７年 12 月６日（土）　午後１時～　　調査主管　福島市
調査面積１８８㎡　　調査主体　公益財団法人福島市振興公社

はじめに

鎧塚遺跡発掘調査は、市道桜内・北高野線道路改良工事に伴い、令和７年７月２２日から実施しています。

本遺跡は、福島市域の盆地床のほぼ中央、福島市街地から西へ約３㎞の吉井田地区に位置し、北を流れる荒川によって形成された段丘の微高地に東西約 900m、南北約 500mにわたり立地しています。

鎧塚遺跡の範囲と周囲の起伏状況

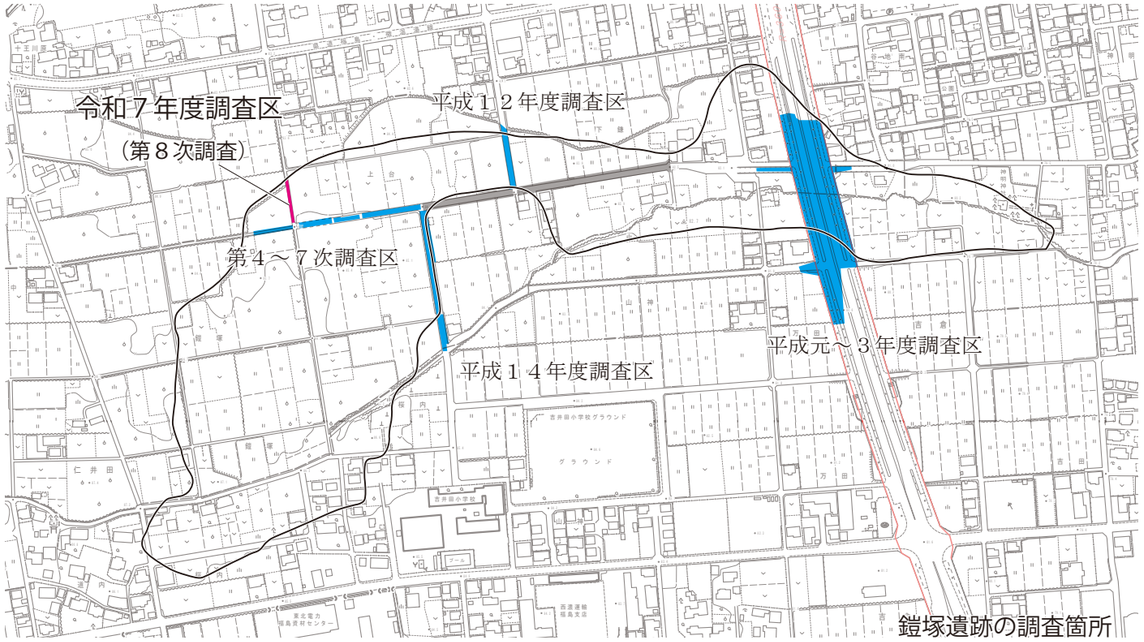
これまで、平成元～３年度にかけて国道１３号福島西道路建設に伴う工事、平成１０年度から３０年度にかけて市道改良工事のために、断続的に調査を行ってきました。その結果、古墳時代（４～６世紀）～平安時代（９世紀）の竪穴建物跡や掘立柱建物跡をはじめとして、弥生時代の土器埋設遺構や、中世の掘立柱建物跡と考えられるピット群などの遺構が確認されています。遺物は弥生土器、土師器、須恵器、緑釉陶器、中世陶器、管玉・刀子などが出土しており、弥生時代から中世にかけて集落が営まれてきた地域であると考えられます。

調査成果

令和７年度の調査では、竪穴建物跡１軒、溝跡３条、土坑３基、ピット約３０基、小溝状遺構５条、自然流路跡１条を確認しています。

６３号竪穴建物跡は、全体の約半分を確認し（残りの半分は調査区外）、当時の人が暮らしていた床面や、住居内に掘ったピット（穴）の中から、使用していたと考えられる土師器が良好な状態で出土しました。器種としては、煮炊き具である有孔鉢、甕や、食膳具と考えられる器台、小型丸底鉢などが確認できました。土師器の出土状況から、住居を廃棄した際に置いていったものと考えられます。

１８０号土坑は隅が丸い方形で、堆積土中から弥生時代中期頃の土器（甕）片が２個体出土しています。１８１号土坑は古墳時代の土師器が出土しています。



鎧塚遺跡の調査箇所

溝跡は、調査区南側の８６号溝跡から、弥生土器や土師器が出土しています。古墳時代以降の遺物が混入していないことから、古墳時代のうちに埋まったと考えられます。掘形はしっかりしていて深く、南北方向に掘られています。

８４・８８号溝跡は、調査区の北側で確認され、東西方向に掘られた溝です。出土した土器はいずれも小片で、古墳時代以降の土器が混入しておらず、古墳時代のうちに埋まったと考えられます。

自然流路跡は、調査区の北端で確認され、調査区外に向かって傾斜します。荒川の氾濫によって造られた地形であると考えられます。流路跡からは土師器や弥生土器が出土しています。小片が多く、流れ込みと考えられます。

ま と め

６３号竪穴建物跡から土師器が良好な状態で１０点以上出土し、土師器の器形から古墳時代前期と考えられます。平成３０年度調査区からも、おおむね同時期の５軒の竪穴建物跡が確認されており、一帯に古墳時代前期（４世紀頃）を中心とする集落が営まれていたことがわかります。

１８０号土坑は弥生時代の土坑で、平成２６年度調査で確認された土器埋設遺構とあわせ、周囲に弥生時代の集落があった可能性も考えられます。

８４・８６・８８号溝跡は、弥生土器や土師器が出土し、古墳時代以降の遺物が混入しないことから、竪穴建物跡と同時期に機能していた可能性があります。

令和７年度調査区遺構配置図

84 号溝跡（東側から撮影）

自然流路跡遺物出土状況
（西側から撮影）

自然流路跡

63 号竪穴建物跡
（南東側から撮影）

86 号溝跡（北側から撮影）

63 号竪穴建物跡
遺物出土状況
（東側から撮影）

86 号溝跡土層断面図
（北側から撮影）